

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域で行われている活動等に利用者様と参加し、地域と連携を図れるように努めている。 事業所独自の理念を作り上げている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	業務ミーティングを行って情報を共有しながら、職員が個々に理念を基に利用者様それぞれの希望に合った落ち着いた生活を送れるよう心がけ支援している。	○	今後も入居者様と関わる際等、理念を忘れず接していきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域の方が来所されても目に付くところに理念・方針を掲げている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の活動や行事の参加を通し顔見知りもでき、また、散歩のときに挨拶をしたり、話しをしたりする事で気軽に声を掛け合える雰囲気もじょじょにできている。草取りを手伝っていただいたり、庭に咲くお花をいただいたりや交流を図っている。	○	挨拶だけでなく、何気ない日常会話まで、発展できるようまた、気軽に立ちよっていただけるように今後も取り組んでいきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り、町内会の行事等には参加している。また、外出時、散歩に出掛けた時等、挨拶や会話を心掛けている。近所の方は、庭に咲くお花をくださったたり、草むしりなどをお手伝いして下さる。	○	挨拶だけでなく、何気ない日常会話まで、発展できるよう今後も取り組んでいきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	職員は、キャラバン・メイト養成講座に参加し、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価から得た結果から、反省や振り返りができ、目標を確認し反省すべき所は、改善する方向で取り組んでいる。	○	今後は、もっと定期的に話し合っていきたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い事業所の情報を報告しながら、意見等を参考にしサービス向上に生かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町内会へ発行する新聞を、市役所にも配布し機会を設けている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修に参加したり、研修の情報を職員に流し学ぶ機会を設けているが、それを生かす機会はまだないので、今後、必要な人にはそれらを活用できるよう支援したい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	講演会や研修に参加し学ぶ機会を設けている。また、事業所内でも定期的にまた、問題が起きた時は、すぐさまミーティングやカンファレンスを開き職員の悩み等を意見し合いながら注意をし防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、入居者、家族へ理解していただける様十分説明を行っている。		今後も、入居者、家族へ十分納得、理解していただけるよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情等は随時傾聴し、良いケアに繋がるよう努めている。また、それらをミーティング等で職員が共有し、改善策を検討している。また、外部では、運営推進会議などを通し、意見を運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族の面会の際は、近況の報告をするよう努めている。また、変化等があった場合はその都度電話連絡をしている。定期的(月1回)に新聞を発行したり、遠方の方には写真を発送し、個々に合わせた報告をしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置、電話連絡、訪問時、家族会を通し意見等を言いやすい機会を設けているまた、外部では運営推進会議を通し報告をし、職員間では、申し送り、ミーティングを通し、意見等の共有を図り、個々のご家族の思いに理解し運営に反映している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者にいつでも相談や意見を求めやすい雰囲気が出来ている。また、面談も行っている。ユニットの業務ミーティング、に参加し意見等を反映させてもらっている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況に応じて随時対応している。必要に応じ勤務の調整なども行っている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動があった場合は、職員や利用者様のダメージを考え配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加したり、指導を受け色々な意見を聞くことができる。また、研修に参加後は業務ミーティングでの発表で参加できない職員にも研修内容を報告している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの広域連絡会等の場を通し、他施設の方とも交流を図り、スキルアップを目指し取り組みをしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の声掛け、表情の変化に注意しストレスになる前に解決する面談などを行っている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の自己評価の設定、評価を行い面談をしながらフォローしている。また、問題点等が起きた場合、面談を行いすぐに対処してくれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者が不安等、何かを求めている時はゆっくりと傾聴し、不安を軽減できるよう支援している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族からの相談に耳を傾け、不安を軽減したり疑問を解決出来るよう努めている。また、どのような雰囲気の中でケアを行なっていくのか家族にわかりやすいように伝えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の話を傾聴し、どちらも納得できるような支援を見極めて、対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族全員(本人も含め)ホーム内を見学していただき説明をし、安心していただいたり、入所時は、家族や本人の希望があれば、お互いが安心するまで宿泊等をしていただきながら、安心していただけるよう配慮しまた、入所前は自宅等を訪問するなどして、馴染みやすい関係になれるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔話を教えていただいたり、一緒に家事を行ったりして、家族の雰囲気で生活できる様、過去の生活などからできるだけ変化に差がないように努める努力をしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族状況や環境により、全てとは言えないと思うが、職員は家族が面会の際現在の状況や最近の状態を話し、一緒に支えていく関係が築けるよう努力している。	○	今後も家族の方の思い等を理解し、共有しながら一緒に喜怒哀楽を共にできる様努めていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の状況を理解しながら、職員は家族が面会の際、現在の状況や最近の状態を話し関係が築けるよう支援している。	○	今後も家族との関係がより良くなるように、関係を築いていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	生活歴等を把握し支援を行っているが、十分とは言えない。	○	今後はより細やかな情報収集に努め、本人にとって馴染みの場所や人は大切なものなので、できるだけ状況を作る努力をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の状況や利用者同士の関係を把握したうえで、本人同士無理がないように支援し、また場面場面で利用者同士が係わるような工夫をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年始の挨拶状やお手紙や電話などで、継続的な関わりを持ち関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が何を思っているのか、本人の希望に沿った支援また、その希望に近い支援が行えるように、スタッフ間で情報を共有したり、本人の係わりを大切にし、生活を支援する事を常に心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	書類や記録、家族からの情報のみでなく、本人との係わりの中から等、様々な方法で利用者の負担が少なくなるように情報を収集し、これまでの生活リズムを乱さない支援に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	精神的、身体的な変化はないか、利用者の状態をよく観察し、スタッフ同士情報を共有し、気になる点は記録や送りのノートに残しておく等して、スタッフ全員が把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の希望や意向を踏まえた上でケアプランを作成し、ミーティングの機会を設けプラン内に改善点や問題点はないか、スタッフ同士意見を交換し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じてケアプランの見直しを行い、変化が生じた場合はケアマネ、職員、家族などと話し合い現状に応じた見直し、作成を行っているが、十分とは言えない。	○	カンファレンスの回数を増やし、職員全員で一人ひとりの変化を把握し、計画の見直しを行いたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は介護記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践したり、見直しに生かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物、外出、外泊などの要望に応じて対応し、ご家族や本人の要望にできる範囲で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	その時々々必要な地域資源を活用し、協力していただきながら支援している。また、行事の際などは、ボランティアの方に協力していただいている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	話し合う事はあるが、支援は現状ではない。	○	他のサービスが利用できるように支援するとともに、他の事業所の方ともっと交流を深められるよう努めたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状ではないが、地域包括支援センターの職員と、運営推進会議、その他を通し相談等を言える体制が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前の掛かりつけ病院での受診に努めている。週1回の看護師の訪問、24時間の電話連絡で相談を行いながら支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近郊の専門医に受診で相談したり、状態等に変化があった時は母体の精神科の医師、看護師に沿相談し、入院が必要なときはスムーズに治療が受けられる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師の訪問があり、口頭や日誌などで利用者様の状況の把握が出来ている。また、掛かりつけの病院などで、常に相談できる環境である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は、ケースワーカーを通しての状態の情報交換や、お見舞い、家族等との連絡で相談し連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取り指針があり、ホームの看取りについての理解をしていただいている。また、職員ともミーティングを通話し合いをしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取り指針があり、ホームの看取りについての理解をしていただいている。また、職員ともミーティングを通話し合いをしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族、本人に係わりながら、話し合いをした上で検討し、住み替えによるダメージを最小限に出来る様配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>十分注意をし、対応している。職員の入職時にも説明や誓約書を交わすなどし、退職後も秘密保持を遵守するよう伝えている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が思いや希望を表せるように、ゆっくり話しをしたり自己決定をしたことを支援し納得できるよう支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切に、本人の希望に沿って支援しているが、その日の状況により出来ない日もある。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>馴染みの美容院へいったり、買い物にいける様努めている。また、身体的な理由等で、馴染みの美容院に行けない時は、ご本人が理容、美容に気にする前に声掛けをし、その時は訪問理容を利用し、その人らしい身だしなみ等ができるように支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>メニューを聞いたり、好まれる食事を作るよう心掛けている。食事の準備や後片付け等も利用者の体調に合わせて一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ティータイム時に好きな飲み物を聞いて出している。また、タバコも利用者さんが吸いたい時にリビングで吸っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の方が気持ちよく排泄が行われるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の方の希望に沿って入浴している。いつでも楽しんで入浴ができる様に声掛けもしている。	○	入浴さうまでが困難な利用者さんが楽しんで入浴できる様、今後も努めた
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠や休息に関して、その季節や気温に合わせた寝具の調整や室内の温度の調整を行い支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者の方の希望に沿って入浴している。いつでも楽しんで入浴ができる様に声掛けもしている。出来る事、出来ない事を考慮しながら、体調に合わせてお手伝いをしていただいたり、役割を持っていただいている。天候を見てドライブ、買い物なども出かける機会を設け、気晴らしへの支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で金銭管理をされている方はいつでも自由に職員と買い物に出かけている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ドライブ、買い物等なるべく多く出かけられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と一緒に外出されたり、外泊をしたり、ドライブなどで個別の対応の機会を設けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話を掛けたり、手紙を出される利用者様は少ないが、訴えがあった際には支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	笑顔で挨拶をし、迎えいつでも気兼ねなく気軽に訪問できるような雰囲気を作りました、心掛けています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束なような言葉遣いや対応に十分に配慮し行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵をかけておらず、安全に配慮しつつ見守りをしている。また、玄関も就寝時間帯に玄関に鍵をかける以外は、鍵はかかっている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時利用者の方の所在確認を行っている。また、それが、プライバシーを侵害する事なく不快感を与えないように配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて、職員が介助したり、配慮しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	常に危険を予測しながらまた、頭におきながら業務に携わっている。避難訓練は年に2度行い、転倒等に関してもヒヤリハットに記入し、また、業務ミーティング等で職員が共有できるようにして状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急処置の指導の研修は受けているが、実際にまだ行った事がないので不安である。	○	講習に繰り返し参加する事で自信に繋げたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練での避難方法の習得、また、地域にも公共の施設を利用できる様に働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	全員の家族とはいかないが、状態や状況に合わせて説明し、対応策を話し合っている。	○	一人ひとりの家族全員と話し合う機会を設け対応策を話し合う機会をもっと設けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員全員で日々の変化の発見に努めている。日頃の少しの変化や異変に常に注意を払い職員間で情報を共有し、早期対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の個人ファイルがあり、職員がいつでも目を通しやすい場所に置いてある。	○	職員全員が目的や副作用を理解できる様、ミーティングでも説明を行いながら、もっと理解を深めていく
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便を促す食材、運動などを心がけている。また、個々に合わせた排便コントロールを実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを実施している。夜間は歯磨きの後入れ歯洗浄剤を使用している。また、利用者の個々の口腔状態に合わせた歯磨き粉を利用しながら支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取、食事量等記録に記入し、職員が全員把握できるようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員を設置しました、マニュアルを配布している。、うがい手洗いはもとより都度、季節毎に発生する感染症の情報を掲示し予防を徹底している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布きん、包丁は漂白を徹底し、アルコール消毒、食材は新鮮なものを使い切り在庫確認を行って管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの周りは畑やお花畑があり、季節の花を感じられ、玄関先にはベンチを置きご近所の方や利用者様がいつでも休みながら、花々を楽しめる。玄関入り口にも季節を感じる花々が置かれている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節毎の装飾が置かれ、共有部分の居間等にも季節ごとの装飾が飾られ、居室入り口には、本人のお気に入りの写真が飾られている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングがキッチンを挟み2つあり、利用者の方は思い、思いのお気に入りの場所で過せるよう、ソファの配置にも配慮している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一人ひとりの使い慣れた馴染みの家具や寝具が置かれお花を置いたり等、自由な家具を置き過している		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝の居室掃除の際には換気をし、外の空気を入れている。また、加湿器を使用したり、利用者の状況に合わせて温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	共用部分には、手すりが設置され、身体機能を活かしながら生活が送れるよう配慮している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの出来る事、出来ない事を日頃より観察し、出来る事がひとつでも増え、楽しい生活が送れる様に努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ご自分の部屋の窓から花々を楽しんだり、希望する方には窓の下に畑を作り花や野菜が楽しめるように工夫している。また、いつでも外に出かけられるような空間が出来ている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 日頃から家族や来客の方が、いついらしらても親しみやすく、来やすい雰囲気作りを心掛けています。毎日の日常の中で、入居者様になるべく外の空気に触れていただけるように、買い物、散歩等を援助しています。